

# 令和4年度 自己評価報告書

令和5年4月1日

学校法人小牧外山学園 とやまこども園

## 1. 本園の教育目標

見る・待つ・引き出す保育、笑顔と歓声があふれる保育、手を取りあう保育を通して園児の主体的な活動を促し、遊びを通しての指導を中心として、幼児期の終わりまでに育つことが期待される、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度などを育成する。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

様々な人や身近な自然と関わり、心を動かす体験を積み重ね、対話的な深い学びが実現できるようにする。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	具体的な取り組みと自己評価
1	保育環境 教職員同士が協力連携し 異年齢の子ども達との交流がさらに深まるような環境づくりの工夫をする。	夕方の長時間保育に乳幼児合同保育を取り入れたり、幼児が普段から乳児クラスの手伝いをしたりしたことで、園全体の雰囲気が温かく安心できる場となり、保育教諭間も交流の場が増え異年齢の理解が深まった。 泡遊びやこま回し場、砂場の樋遊びなど環境を子どもと一緒に工夫したことで、交流に繋がった。また、散歩に行く計画を子ども達と一緒に立て、年上の子に刺激を受けたり、優しく関わったり、異年齢の交流に繋がった。
2	地域・社会・自然との関わり こどもを介して大人も繋がる、地域・自然とも繋がる、共主体の保育を考える	園庭に畑を作り、土作りから子どもたちに働きかけたことで、興味関心を深めることに繋がった。野菜の育て方や収穫、調理もどうしたらよいか子どもたちと考え合い、保護者や散歩に出かけた際に地域の方にも聞くなどして、様々な人が関わり楽しむことができた。この経験が、地域の環境に目を向けるきっかけにもなり、自然や地域の方と関わりを深めることができた。
3	幼児理解を深める 自己肯定感をはぐくみ、 自信を持って生活していく力を育てるために幼児理解を深める	子ども達の興味や疑問に耳を傾け、一緒に面白がったり、探究したりしたことが、自信を持って生活することに繋がった。 生活環境によってリズムが異なることを理解し、一斉に声をかけるのではなく、一人一人の姿に合わせた援助を心掛けた。それぞれの「やりたい」「できた」に繋がり自信を持って生活できた。

## 4. 総合的な評価結果

一つ一つの体験が相互に結び付くように環境を整え、保育教諭も一緒になって考えたり、面白がったり、援助してきたことが、幼児理解を深め、対話的で深い学びへと繋がった。

## 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み
1	保育環境	楽しい雰囲気の中で安心して遊び込める環境や自ら活動を展開していけるような場や空間を構成する。
2	職員間の協力・連携	キャリアを超え、日々の何気ない会話から互いを理解し、話しやすい雰囲気を作ることを大切にする。
3	保護者対応	自分達が向上心を持って学び、専門性を高め、保護者を支援していく。